

製品名: Frizzled-2 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab11141**

研究使用のみ

概要

| | |
|--------|--|
| 説明 | ウサギポリクローナル抗体 |
| 宿主 | うさぎ |
| 応用 | WB,ICC/IF,ELISA |
| 反応性 | ヒト、マウス、ラット |
| 標識 | 非共役 |
| 修飾 | 未修正 |
| アイソタイプ | IgG |
| クローン性 | ポリクローナル |
| 形態 | 液体 |
| 濃度 | 1mg/ml |
| 保存 | アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。 |
| 輸送 | 氷袋 |
| バッファー | 50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。 |
| 精製 | アフィニティー精製 |

応用

| | |
|------|---|
| 希釈倍率 | WB 1:500-1:2000,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:20000-1:40000 |
| 分子量 | 55kDa |

抗原情報

| | |
|--------------|--|
| 遺伝子名 | FZD2 |
| 別名 | FZD2; Frizzled-2; Fz-2; hFz2; FzE2 |
| 遺伝子 ID | 2535.0 |
| SwissProt ID | Q14332 |
| 免疫原 | 抗血清はヒト FZD2 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 201-250 |

背景

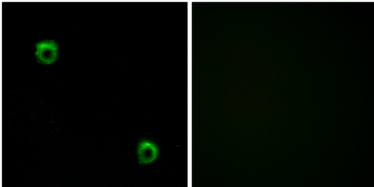
frizzled クラス受容体 2 (FZD2) ホモサピエンス このイントロンのない遺伝子は、frizzled 遺伝子ファミリーのメンバーです。このファミリーのメンバーは、wingless 型 MMTV 統合部位ファミリーのシグナル伝達タンパク質の受容体である 7つの膜貫通ドメイン

ンパク質をコードします。この遺伝子は、 β -カテニンの標準的なシグナル伝達経路に共役するタンパク質をコードします。wingless 型 MMTV 統合部位ファミリーのメンバー 3A 遺伝子産物と wingless 型 MMTV 統合部位ファミリーのメンバー 5A 遺伝子産物間のこのタンパク質の結合をめぐる競合が、 β -カテニン依存性および β -カテニン非依存性経路を制御していると考えられています。[RefSeq 提供、2010 年 12 月],ドメイン: Lys-Thr-X-X-Trp モチーフは、Wnt/ β -カテニンシグナル伝達経路の活性化に関与しています。ドメイン: FZ ドメインは Wnt リガンドとの結合に関与しています。機能: Wnt タンパク質の受容体。frizzled 受容体のほとんどは、 β -カテニンの標準的なシグナル伝達経路に結合しており、disheveled タンパク質の活性化、GSK-3 キナーゼの阻害、 β -カテニンの核内蓄積、および Wnt 標的遺伝子の活性化につながります。PKC とカルシウムフラックスが関与する 2 番目のシグナル伝達経路が、いくつかのファミリーメンバーで確認されていますが、PKC は Wnt を介した GSK-3 キナーゼの不活性化に必要と思われるため、それが別の経路を表すのか、標準経路に統合できるのかはまだ明らかではありません。どちらの経路も G タンパク質との相互作用に関与しているようです。組織形態形成中および/または分化組織における極性情報の伝達および細胞間伝達に関与している可能性があります。類似性:G タンパク質共役受容体 Fz/Smo ファミリーに属します。類似性:1 つの FZ (frizzled) ドメインを含みます。組織特異性:広く発現しています。成人では、主に心臓、胎盤、骨格筋、肺、腎臓、脾臓、前立腺、精巣、卵巣、結腸に存在します。胎児では、脳、肺、腎臓に発現します。胎児肝臓にも低濃度で存在します。

研究分野

WNT、WNT-T 細胞、メラニン生成、がんの経路、大腸がん、基底細胞がん

画像データ



FZD2 抗体を用いた MCF7 細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロックした状態。